

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 久米島方言の音韻

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00002451">https://doi.org/10.15084/00002451</a>

## 久米島方言の音韻

木部 暢子\*

### 1 はじめに

2013年12月の調査では、比嘉、儀間、真謝、西銘の4地域で方言の録音と調査を行った。本稿は、そのデータのうち基礎語彙調査と文法項目調査のデータをもとにして、4地域の音韻の特徴をまとめたものである。

### 2 母音

#### 2.1 短母音

久米島方言の短母音は /a/, /i/, /u/ の3つである。/a/ (あ) は標準語の /a/ (ア) に対応し、/i/ (い) は標準語の /i/ (イ) と /e/ (エ) に対応し、/u/ (う) は標準語の /u/ (ウ) と /o/ (オ) に対応している。表1に用例をあげておこう。

表1 短母音 /a/, /i/, /u/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
a	ほくろ	adza (あざ)	aza (あざ)	aza (あざ)	a <sup>d</sup> za~aza (あざ)
	欠伸(あくび)	akubi (あくび)	akubi (あくび)	akubi (あくび)	akubi (あくび)
	汗(あせ)	aei: (あしー)	aei (あし)	aei (あし)	aei (あし)
	明かり	akagai (あかがい)	akagai (あかがい)	akagai (あかがい)	akagai (あかがい)
i	海老(えび)	jebi (いえび)	ibi (いび)	ibi (いび)	ibi (いび)
	西(にし)	iri (いり)	iri (いり)	iri (いり)	iri (いり)
	板(いた)	ita (いた)	ita (いた)	ita (いた)	ita (いた)
u	口(くち)	kutei (くち)	kutei (くち)	kutei (くち)	kutei (くち)
	腿(もも)	mumu (むむ)	mumu (むむ)	mumu (むむ)	mumu (むむ)
	内(うち)	utei (うち)	utei (うち)	utei (うち)	utei (うち)
	奥(おく)	uku (うく)	uku (うく)	uku (うく)	uku (うく)
	一昨日 (おととい)	utti: (うっていー)	utti: (うっていー)	ututui (うとうとい)	utti: (うっていー)
	親(おや)	uja (うや)	uja (うや)	uja (うや)	uja (うや)

短母音の /e/ と /o/ は、久米島方言ではほとんど使われない。調査した基礎語彙 560 語のうち、[e] と [o] が現れたのは、標準語的な発音が回答されたケース (表2) と、表3にあげた語 (網

\* きべ のぶこ：国立国語研究所・教授

掛け部分) だけである。表3のうち、「蜻蛉」の a:kedzu (あーけづ) <比嘉>, akedzu (あけづ) <儀間>, 「鎌」の erena (えれな) <西銘>, 「蟻」の aiko (あいこ) <比嘉> は, 他の地域では長母音の [e:], [o:] で発音されているので, もともと長母音だったものが短く発音されたのではないかと思われる。

表2 短母音 /e/, /o/

e	çit̥ude (ひとうで), çimo (ひも, 紐), wakame (わかめ, 若芽), mei (めい, 姪)
o	oi (おい, 甥), kaiko (かいこ, 蚕), zizo (じじよ, 次女), sanzo (さんじよ, 三女), jonzo (よんじよ, 四女), rokuniN (ろくにん, 六人), joku (よこ, 横), hoka (ほか, 外), tonai (とない, 隣)

表3 短母音 /e/, /o/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
e	襟(えり)	jeri (いえり)	teinnukubi (ちんぬくび)	jeri (いえり)	jeri (いえり)
	鼠(ねずみ)	entsu (えんつ)	jentsu (いえんつ)	qentsu (いえんつ)	wentsu (うえんつ)
	臍(へそ)	φusu (ふす)	φusu (ふす)	φusu (ふす)	tembusu (てんぶ す)(でべそ)
	尿(にょう)	ɕibeɪ~subeɪ (しべい~すべい)	ɕi:bai (しーばい)	subai (すばい)	subai (すばい)
	蜻蛉(とんぼ)	ma:re: (まーれー)	akedzu (あけづ)	a:kedzu (あーけづ)	akke:zu: (あっけーずー)
	鎌(かま)	erena (えれな)	ine:ra (いねーら)	ire:ra (いれーら)	ire:ra (いれーら)
o	台所(だいどころ)	toŋ <sup>w</sup> a (とんぐわ)	toŋ <sup>w</sup> a (とんぐわ)	tung <sup>w</sup> a (とんぐわ)	toŋ <sup>w</sup> a (とんぐわ)
	虹(にじ)	nizi (にじ)	nizi (にじ)	nizi (にじ)	konnazi (こんなじ)
	蟻(あり)	ai (あい)	aiko: (あいこー)	aiko (あいこ)	aiko: (あいこー)

## 2. 2 長母音

短母音が /a/, /i/, /u/ の3つであるのに対し, 長母音は /a:/, /i:/, /u:/, /e:/, /o:/ の5つである。長母音は, 次のような語に現れる。

①標準語の1モーラ(拍)自立語。久米島方言では, 自立語はすべて2モーラ以上の長さで発音される。そのため, 標準語の1モーラ自立語は, 久米島方言では ta: (たー)(田), tei: (ちー)(血) のように長母音を含む2モーラで発音される。その例を以下にあげる。

表4 1音節2モーラ自立語

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
a:	田(た)	ta: (たー)	ta: (たー)	ta: (たー)	ta: (たー)
	菜(な)	na: (なー)	o:ha (おーは)	na: (なー)	na: (なー)
i:	血(ち)	tei: (ちー)	tei: (ちー)	tei: (ちー)	tei: (ちー)

	木(き)	ki: (きー)	ki: (きー)	ki: (きー)	ki: (きー)
	毛(け)	ki: (きー)	ki: (きー)	ki: (きー)	ki: (きー)
	手(て)	ti: (ていー)	ti: (ていー)	ti: (ていー)	ti: (ていー)
u:	湯(ゆ)	ju: (ゆー)	ju: (ゆー)	ju: (ゆー)	ju: (ゆー)
	穂(ほ)	φu: (ふー)	φu: (ふー)	φu: (ふー)	φu: (ふー)

②金田一のアクセント類別語彙の2拍名詞3・4・5類語の一部。北琉球では2音節名詞の一部がka:mi(かーみ)(瓶), u:ei(うーし)(臼)のように第1音節目を長く延ばして発音される。服部(1932)は、このような語が金田一のアクセント類別語彙表の2拍名詞第3類(「山・犬」の類), 第4類(「松・笠」の類), 第5類(「春・雨」の類)に所属する語の一部であることを指摘し(表5参照), 琉球語ではもともと第1音節目の母音の長短により, 3・4・5類語が2つのグループに分かれていたと推定した。その後, 松森氏は琉球各地のアクセントを調査し, 琉球語にA系列, B系列, C系列の3つのアクセント語グループ(「系列別語彙」)を設定した(松森2000, 2012)。第1音節目が長く発音される語は, このうちC系列に属している。久米島方言でもC系列に属する語は第1音節目が長母音で発音される。

表5 2拍名詞3・4・5類語の対応

類	3類語		4類語		5類語	
	山	瓶	笠	松	雨	桶
単語						
京都方言	ヤ`マ	カ`メ	カ`サ	マ`ツ	ア`メ	オ`ケ
東京方言	ヤ`マ	カ`メ	カ`サ	マ`ツ	ア`メ	オ`ケ
首里方言	jama (やま)	ka:mi (かーみ)	kasa (かさ)	ma:tei (まーち)	ami (あみ)	u:ki (うーき)
第1音節の長短	短母音	長母音	短母音	長母音	短母音	長母音

※ ` は音調の上がり目を, ` は音調の下がり目を表す。

今回の調査語の範囲で第1音節が長母音で発音されたのは, 表6にあげた語である。地点により第1音節の母音の長短に違いがある場合は, 表6では, 長母音で発音された地点の名称を<>の中に記入している。地点名を明記していない語は, 4地点とも第1音節が長母音で発音された語である。

表6 第1音節が長母音で発音される語

3類語 bi:bi(びーび)(指), ka:mi(かーみ)(瓶), nu:mi(ぬーみ)(蚕), ha:tei(はーち)(鉢), ha:ma(はーま)(浜)<比嘉・儀間・西銘>, φu:ni(ふーに)(骨), ma:mi(まーみ)(豆)<比嘉>

4類語 a:tu(あーとう)(跡), i:tei(いーち)(息), u:ei(うーし)(臼), u:mi(うーみ)(海), u:bi(うーび)(帯), na:ka(なーか)(中), nu:mi(ぬーみ)(鑿)<比嘉>, ha:i(はーい)(針), ha:ei(はーし)(箸), ma:tei(まーち)(松)

5類語 u:ki(うーき)(桶), ka:gi(かーぎ)(蔭), ta:bi(たーび)(足袋), mu:ku(むーく)(婿), ma:ju(まーゆ)(眉)<真謝>

その他 i:ri(いーり)(錐)<比嘉>, u:nu(うーぬ)(斧), u:ru(うーる)(布団), ku:ga(くーが)(卵), gu:φu(ぐーふ)(たんこぶ)<比嘉, 儀間>, sa:zi(さーじ)(手拭い), ei:gu(しーぐ)(小刀),

ei:za (しーざ) (年上), ei:ei (しーし) (煤), ei:za (しーじゃ) (年上), su:ra~su:da (すーら~すーだ) (砂糖黍の先端) <比嘉, 儀間>, ti:da (ていーだ) (太陽), ti:ru (ていーる) (籠), dzi:ru (ぢーる) (囲炉裏) <真謝, 西銘>, na:ba (なーば) (茸), ni:bu (にーぶ) (ひしゃく), ne:bi (ねーび) (真似), ci:tu (ひーとう) (海豚) <真謝, 儀間, 西銘>, fu:ru (ふーる) (便所), he:ra (へーら) (籠), ho:tu (ほーとう) (鳩), ma:i (まーい) (肛門) <比嘉, 儀間>, ma:su (まーす) (塩), ja:ni (やーに) (来年), je:ku (いえーく) (櫛)

③連母音が融合して生じた長母音。例えば、表7の a: (あー) (泡) は \*awa > \*aa > a: のような変化により生じた長母音, kwi: (くいー) (声) は \*koe > \*kui > kwi: のような変化により生じた長母音である (\* は想定した形であることを表す)。

表7 長母音

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
a:	泡(あわ)	awa (あわ)	a: (あー)	a: (あー)	a: (あー)
	俵(たわら)	ta:ra (たーら)	ta:ra (たーら)	ta:ra: (たーらー)	ta:ra (たーら)
i:	声(こえ)	kwi: (くいー)	kwi: (くいー)	kqi: (くいー)	kwi: (くいー)
	一昨日	utti: (うっていー)	utti: (うっていー)	ututui (うとうとうい)	utti: (うっていー)
e:	苗(なえ)	ne: (ねー)	ne: (ねー)	ne: (ねー)	ne: (ねー)
	蠅(はえ)	he: (へー)	he: (へー)	he: (へー)	he: (へー)
	前(まえ)	me: (めー)	me: (めー)	me: (めー)	me: (めー)
	青年(せいねん)	ni:se: (にーせー)	niece:~nise: (にし えー~にせー)	ninse: (にんせー)	ni:ee:ta (にーせーた)
o:	竿(さお)	so: (そー)	so: (そー)	so: (そー)	so: (そー)
	青い(あおい)	o:ru: (おーるー)	o:ru: (おーるー)	o:ru: (おーるー)	o:ru: (おーるー)
	麴(こうじ)	ko:zi (こーじ)	ku:dzi (くーぢ)	ko:zi (こーじ)	ko:zi (こーじ)

④その他, maja:(まやー) (猫), ma:ze:(まーぜー) (ぼった), habe:ru (はべーる) (蝶々), garasa: (がらさー) (鳥) などの動物名や ti:tei (ていーち) (一つ), ta:tei (たーち) (二つ) などの数詞, その他, 表8に示したような語に長母音が現れる。

表8 その他の長母音

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
a:	髪の毛	ka:radzi (かーらぢ)	ka:radzi (かーらぢ)	ka:radzi (かーらぢ)	ka:radzi~ka:ragi: (かーらぢ~からぎー)
	モッコ	o:da: (おーだー)	o:ra: (おーらー)	o:ra (おーら)	o:ra: (おーらー)
	蛙(かえる)	atabi:(あたびー)	atabiku: (あたびくー)	atabitea: / atabi: (あたびちやー/ あたびー)	atabi: / atabitea: (あたびー/ あたびちやー)
i:	餅(もち)	mutei~mu:tei: (むち~むーちー)	muttei: (むっちー)	mutei: (むちー)	mutei: (むちー)

	亀(かめ)	ka:mi: (かーみー)	ka:mi: (かーみー)	ka:mi: (かーみー)	ka:mi: (かーみー)
u:	筵(むしろ)	mu:su (むーす)	mu:iru (むしろ)	mu:su (むーす)	mu:su (むーす)
	蓬(よもぎ)	ɸu:teiba: (ふーちばー)	ɸu:teiba: (ふーちばー)	ɸuteiba: (ふちばー)	ɸu:teiba: (ふーちばー)
o:	笹(ざる)	so:ki (そーき)	so:ki (そーき)	so:ki (そーき)	so:ki (そーき)

### 2.3 二重母音

二重母音には, /ai/, /ui/ がある。二重母音の後部母音の i は, ri が変化したものである。以下に例をあげる。

表9 二重母音

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
ai	左(ひだり)	ɕizai (ひざい)	ɕizai (ひざい)	ɕizai~ɕizai (ひざい~ひじやい)	ɕizai (ひじやい)
	明かり	akagai (あかがい)	akagai (あかがい)	akagai (あかがい)	akagai (あかがい)
	果物(くだもの)	naimun (ないむん)	naimun (ないむん)	naimun (ないむん)	nai (ない)
ui	鳥(とり)	tui (とぅい)	tui (とぅい)	tui (とぅい)	tui (とぅい)
	一人(ひとり)	tsui (つゐ)	tsui (つゐ)	teui (ちゅい)	teui (ちゅい)
	踊り(おどり)	urui (うゐい)	udui (うどぅい)	udui (うどぅい)	urui (うゐい)

## 3 子音

### 3.1 両唇音

両唇音には無声閉鎖音の /p/, 有声閉鎖音の /b/, 鼻音の /m/ がある。/p/ は一般の語にはほとんど現れない。調査語の範囲では以下のような語に /p/ が現れた。

表10 両唇音 /p/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
pa	鼓(つづみ)	te:ku (てーく)	te:ku (てーく)	p <sup>h</sup> araŋku: (へばらんくー)	te:ku / teizimi (てーく / ちじみ)
pe:	唾(つば)	tuppe: (とぅっぺー)	tuppe: (とぅっぺー)	tumpe: (とぅんぺー)	tumpe: (とぅんぺー)

/b/ は語頭には立たず、語中に現れる。調査語の範囲では, ba:ki (ばーき) (芋を洗う笹, 目の粗い笹)」の1語に語頭の /b/ が現れた。

表11 両唇音 /b/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
ba:	笹(ざる)	ba:ki (ばーき)	ba:ki (ばーき)	ba:ki (ばーき)	ba:ki (ばーき)

ba	びろう樹	kuba (くば)	kuba (くば)	kuba (くば)	kuba (くば)
	舌(した)	ɛiba (しば)	ɛiba (しば)	suba (すば)	suba (すば)
bi	首(くび)	kubi (くび)	kubi (くび)	kubi (くび)	kubi (くび)
	真似(まね)	me:bi (めーび)	ne:bi (ねーび)	ne:bi (ねーび)	ne:bi (ねーび)
bu	冬瓜(とうがん)	ɛibui (しぶい)	ɛibui (しぶい)	subui (すぶい)	subui (すぶい)
	ミカン	kurubu (くるぶ)	kurubu (くるぶ)	kurubu (くるぶ)	kurubu (くるぶ)
be:	糸瓜(へちま)	nabera: (なべらー)	nabe:ra:~nabe:da: (なーべらー~ なーべだー)	nabe:ra: (なべーらー)	nabe:ra: (なべーらー)

/m/ は語頭、語中に現れる。久米島方言の /ma/ (ま) は標準語の /ma/ (マ) に、/mi/ (み) は標準語の /mi/ (ミ), /me/ (メ) に、/mu/ (む) は標準語の /mu/ (ム), /mo/ (モ) に対応している。以下に用例をあげる。

表 12 両唇音 /m/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
ma	眉(まゆ)	maju: (まゆー)	maju (まゆ)	maju (まゆ)	ma:ju (まーゆ)
	胡麻(ごま)	guma (ぐま)	guma (ぐま)	guma (ぐま)	guma (ぐま)
mi	水(みず)	mizi (みじ)	mizi (みじ)	mizi (みじ)	mizi (みじ)
	虱(しらみ)	ɛirami (しらみ)	ɛirami (しらみ)	ɛirami (しらみ)	ɛirami (しらみ)
	夢(ゆめ)	imi (いみ)	imi (いみ)	imi (いみ)	imi (いみ)
mu	虫(むし)	muei (むし)	muei (むし)	muei (むし)	muei (むし)
	腿(もも)	mumu (むむ)	mumu (むむ)	mumu (むむ)	mumu (むむ)
	雲(くも)	k <sup>h</sup> umu (くむ)	kumu (くむ)	kumu (くむ)	kumu (くむ)
me:	前(まえ)	me: (めー)	me: (めー)	me: (めー)	me: (めー)
mo	紐(ひも)	ɕimo (ひも)	ɕimu (ひむ)	ɕimu (ひむ)	ɕimo (ひも)

### 3. 2 歯茎音

歯茎音には、無声閉鎖音の /t/, 有声閉鎖音の /d/, 弾き音の /tʰ/, 無声摩擦音の /s/, 有声摩擦音の /z/, 破擦音の /ç/, 鼻音の /n/ がある。

#### 3. 2. 1 歯茎音閉鎖音

/t/ は語頭、語中に現れる。/ta/ (た) は標準語の /ta/ (タ) に、/ti/ (てい) は標準語の /te/ (テ) に、/tu/ (とう) は標準語の /to/ (ト) に対応している。

表 13 歯茎閉鎖音 /t/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
ta	型(かた)	kata (かた)	kata (かた)	kata (かた)	kata (かた)
	歌(うた)	uta (うた)	uta (うた)	uta (うた)	uta (うた)

ta:	田(た)	ta: (たー)	ta: (たー)	ta: (たー)	ta: (たー)
	二つ	ta:tei (たーち)	ta:tei (たーち)	ta:tei (たーち)	ta:tei (たーち)
ti	空(そら)	tiN (ていん)	ti (ていん)	tiN (ていん)	tiN (ていん)
	朝(あさ)	eɪtumi (しとうみてい)	eɪtumi (していみてい)	tumi (とうみてい)	tumi (とうみてい)
ti:	手(て)	ti: (ていー)	ti: (ていー)	ti: (ていー)	ti: (ていー)
	太陽 (たいよう)	ti:ra (ていーら)	ti:ra (ていーら)	ti:da (ていーだ)	ti:ra~ti:da (ていーら~ていーだ)
	一昨日	utti: (うっていー)	utti: (うっていー)	ututui (うとうとらい)	utti: (うっていー)
tu	鳥(とり)	tui (とうい)	tui (とうい)	tui (とうい)	tui (とうい)
	唾(つば)	tuppe: (とうっぺー)	tuppe: (とうっぺー)	tumpe: (とうんぺー)	tumpe: (とうんぺー)
	鳩(はと)	ho:tu (ほーとう)	ɸu:tu (ふーとう)	ho:tu (ほーとう)	ho:tu (ほーとう)
	港(みなと)	nnatu (んなとう)	nnatu~mnatu (んなとう~むなとう)	nnatu (んなとう)	nnatu (んなとう)
te:	鼓(つづみ)	te:ku (てーく)	te:ku (てーく)	te:ku (てーく)	te:ku (てーく)
to	台所	tong <sup>w</sup> a (とんぐわ)	tong <sup>w</sup> a (とんぐわ)	tung <sup>w</sup> a (とうんぐわ)	tong <sup>w</sup> a (とんぐわ)

/d/ は表 14, 15 にあげたように、語頭にも語中にも現れる。地点によって [d] や [r] で発音されることがあり、また、同一地点でも [d]~[r] のように発音が揺れることがある。一方で、次節に述べるように、[r] で一定していて揺れない /d/ が存在する。このことから、[d]~[r] のような揺れを持つ音に対しては音素 /d/ を立て、[d], [r] はそのバリエーションと考える。

表 14 歯茎閉鎖音 /d/ (語頭)

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
da	竹(たけ)	raki (らき)	daki (だき)	daki~raki (だき~らき)	raki (らき)
	傘(かさ)	--	dangasa (だんがさ)	dangasa~rangasa (だんがさ~らんがさ)	--
du	体(からだ)	ru: (るー)	ru: (るー)	du:~ru: (どうー~るー)	ru: (るー)
	友だち	rueinta:~dueinta: (るしんつあー~ どうしんつあー)	duei (どうし)	duei (どうし)	duei (どうし)
de:	大根(だいこん)	de:kuni (でーくに)	de:kuni (でーくに)	de:kuni (でーくに)	de:kuni (でーくに)

表 15 歯茎閉鎖音 /d/ (語中)

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
da	涎(よだれ)	jurai (ゆらい)	judai (ゆだい)	jurai (ゆらい)	jurai (ゆだい)



	枝(えだ)	jura (ゆら)	juda (ゆだ)	jura (ゆら)	jura (ゆら)
	あだん	aran (あらん)	adan (あだん)	aramba: (あらんばー)	arannu (あらんぬ)
	砂糖黍の先端	無回答	su:da (すーだ)	su:ra (すーら)	無回答
	太陽(たいよう)	ti:ra (ていーら)	ti:ra (ていーら)	ti:da (ていーだ)	ti:ra~ti:da (ていーら~ていーだ)
	ふくらはぎ	kunra (くんら)	kunda (くんだ)	kunda (くんだ)	kunra (くんら)
	油(あぶら)	anda (あんだ)	anda~anra (あんだ~あんら)	anda~anra (あんだ~あんら)	anra (あんら)
	糸瓜(へちま)	nabera: (なべらー)	nabe:ra:~nabe:da: (なべーらー~なべーだー)	nabe:ra: (なべーらー)	nabe:ra: (なべーらー)
	夫婦(ふうふ)	mi:tunra:~ mi:tunda: (みーとらんらー~ みーとらんだー)	mi:tunda (みーとらんだ)	mitunda (みとらんだ)	mi:tunda (みーとらんだ)
di	夕方(ゆうがた)	ju:sandi (ゆーさんでい)	jusandi (ゆさんでい)	jusandi (ゆさんでい)	juhandi (ゆはんでい)
	袖(そで)	sudi (すでい)	suri (すり)	suri (すり)	suri (すり)
	筆(ふで)	φudi (ふでい)	φuri (ふり)	φuri (ふり)	φuri (ふり)
du	角(かど)	karu (かる)	eimi (しみ)	kadu (かどう)	karu~kadu (かる~かどう)
	踊り(おどり)	urui (うるい)	udui (うどうい)	udui (うどうい)	urui (うるい)
de:	兄弟(きょうだい)	eo:re: (しょーれー)	teo:de: (ちよーでー)	teo:de: (ちよーでー)	teo:de: (ちよーでー)
do:	歩いてはいけない	aruitee: naranro: (あるいちえーならんろー)	aratee: narando: (あらちえーならんどー)	attee: narando: (あつちえーならんどー)	attee: naran (あつちえーならん)

### 3. 2. 2 歯茎はじき音

/d/ が [d] と [r] の間を揺れるのに対して、音素 /d/ は [r] で一定していて揺れない。/r/ は語頭には立たず、もっぱら語中に現れる。以下にその例をあげておこう。

表 16 歯茎はじき音 /r/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
ra	白髪(しらが)	eiragi (しらぎ)	eiragi (しらぎ)	eiragi (しらぎ)	eiragi (しらぎ)
	涙(なみだ)	minnara (みんなら)	nara (なら)	nara (なら)	nara / mi:nara (なら/みーなら)
ri	霧(きり)	k'iri (きり)	kiri (きり)	teiri (ちり)	kiri (きり)
	東(ひがし)	agari (あがり)	agari (あがり)	agari (あがり)	agari (あがり)

	これ	kuri (くり)	kuri (くり)	kuri (くり)	kuri (くり)
ru	ミカン	kurubu (くるぶ)	kurubu (くるぶ)	kurubu (くるぶ)	kurubu (くるぶ)
	夜(よる)	juru (ゆる)	juru (ゆる)	juru (ゆる)	juru (ゆる)
	にんにく	çiru (ひる)	çiru (ひる)	çiru (ひる)	çiru (ひる)
re:	鎌(かま)	erena (えれな)	ine:ra (いねーら)	ire:ra (いれーら)	ire:ra (いれーら)
	盥(たらい)	tare: (たれー)	ta:re: (たーれー)	tare: (たれー)	tare: (たれー)
ro	飛んでいる	turon (とうろん)	turon (とうろん)	turon (とうろん)	turon (とうろん)

### 3. 2. 3 歯茎摩擦音

/s/ は母音 /a/, /u/, /o:/ の前では [s], /i/ の前では [ç] と発音される。/e:/ の前では [s] と [ç] の両方の発音が現れる。例えば、「青年」は真謝では [ni:çe:ta] (にーしえーた : 「た」は複数を表す接辞で「青年たち」に当たる), 比嘉では [inse:] (にんせー), 西銘では [ni:se:] (にーせー), 儀間では [nice:~nise:] (にしえー~にせー) である。標準語との対応関係は, /sa/ (さ) が標準語の /sa/ (サ) に, /si/ (し) が標準語の /si/ (シ), /su/ (ス), /se/ (セ) に, /su/ (す) が標準語の /so/ (ソ) に, /se:/ (せー) が標準語の /sai/ (サイ) に, /so:/ (そー) が標準語の /sao/ (サオ) に対応している。例えば, 下の表の se:zara (せーざら) (皿) は「さいざら (菜皿)」の転, çe:ku (しえーく) (大工) は「サイク (細工)」の転, ni:çe: (にーしえー) (青年) は「ニサイ (二歳)」の転, so: (そー) (竿) は「サオ (竿)」の転である。

表 17 歯茎摩擦音 /s/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
sa	種(たね)	sani (さに)	sani (さに)	sani (さに)	sani (さに)
	杖(つえ)	gu:san (ぐーさん)	gu:san (ぐーさん)	gusan~gusanu (ぐさん~ぐーさぬ)	gusanu (ぐさぬ)
si	肉(にく・しし)	çiei (しし)	çiei (しし)	çiei (しし)	çiei (しし)
	島(しま)	çima (しま)	çima (しま)	çima (しま)	çima (しま)
	相撲(すもう)	çima (しま)	çima (しま)	çima (しま)	çima (しま)
	砂(すな)	çina (しな)	çina (しな)	çina (しな)	çina (しな)
	煤(すす)	çei:çei (しーし)	çei:çei (しーし)	çei:çei (しーし)	çei:çei (しーし)
	年(とし)	tuei (とうし)	tuei (とうし)	tuei (とうし)	tuei (とうし)
	石(いし)	iei (いし)	iei (いし)	iei (いし)	iei (いし)
	臼(うす)	u:çei (うーし)	u:çei (うーし)	u:çei (うーし)	u:çei (うーし)
汗(あせ)	açei: (あしー)	açei (あし)	açei (あし)	açei (あし)	
su	底(そこ)	suku (すく)	suku (すく)	çitei (しち)	suku (すく)
	味噌(みそ)	misu (みす)	misu (みす)	misu (みす)	misu (みす)
	袖(そで)	sudi (すでい)	suri (すり)	suri (すり)	suri (すり)
	モズク	sunui (すぬい)	sunui (すぬい)	sunui (すぬい)	sunui (すぬい)
se:	皿(さら)	sara (さら)	çe:çzara (しえーざら)	çe:zara (しえーざら)	se:zara (せーざら)

	大工(だいく)	ɛɛ:ku~se:ku (しえーく~せーく)	ɛɛ:ku (しえーく)	se:ku (せーく)	ɛɛ:ku (しえーく)
	青年(せいねん)	ni:se: (にーせー)	niece:~nise: (に しえー~にせー)	ninse: (にんせー)	ni:ɛɛ:ta (にーしえーた)
so:	竿(さお)	so: (そー)	so: (そー)	so: (そー)	so: (そー)
	肋骨(あばらぼ ね)	so:ki (そーき)	so:kibuni~ so:kibu:ni (そーきぶに~ そーきぶーに)	so:kibuni / so:ki (そーきぶに~ そーき)	so:kibu:ni (そー きぶーに)

このほか, [ɛa] (しゃ), [ɛu:] (しゅー), [ɛo:] (しよー) の発音が各 1 例, 聞かれた (表 18)。西銘の ɕisa (ひしゃ) (足) は ɕisa (ひさ) と発音されることもあり, 他の地域では ɕisa (ひさ) と発音されていることから, この [ɛa] (しゃ) は [sa] (さ) の異音と考えられる。同じく, 西銘の ɛo:re: (しよーれー) (兄弟) も, 他の地域では teo:de: (ちよーでー) と発音されているので, [ɛo:] (しよー) は [teo:] (ちよー) の異音と考えられる。[ɛu:] (しゅー) の発音は, 調査の範囲では真謝の「お父さん」にしか出てこなかった。中本『琉球語彙史の研究』(1983) によると, 久米島比嘉, 宇江城では「お父さん」のことを [su:] (すー) ということになっているので, この [ɛu:] (しゅー) も [su:] (すー) の異音と考えることができる。

表 18 [ɛa], [ɛu], [ɛo]

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
[ɛa]	足(あし, 全体)	ɕiea~ɕisa (ひし ゃ~ひさ)	ɕisa (ひさ)	ɕisa (ひさ)	ɕisa (ひさ)
[ɛo:]	兄弟(きょうだい)	ɛo:re: (しよーれー)	teo:de: (ちよーでー)	teo:de: (ちよーでー)	teo:de: (ちよーでー)
[ɛu:]	お父さん	oto: (おとー)	oto: (おとー)	oto: (おとー)	ɛu: (しゅー)

/z/ は, 母音 /a/, /u/, /e/ の前では [z] ないし [dz] ないし [z] ないし [dz], /i/ の前では [z] ないし [dz] である。標準語との対応関係は, /za/ (ざ) が標準語の /za/ (ザ) に, /zi/ (ジ) が標準語の /zi/ (ジ), /zu/ (ズ), /ze/ (ゼ), /gi/ (ギ) に, /zu/ (ず) が標準語の /zo/ (ゾ) に対応している。

表 19 歯茎摩擦音 /z/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
za	匂い(におい)	kaza (かざ)	kaza (かざ)	kaza (かざ)	kaza (かざ)
	左(ひだり)	ɕizai (ひざい)	ɕizai (ひざい)	ɕizai~ɕizai (ひざい~ひじゃい)	ɕizai (ひじゃい)
	目上 (男女とも)	ei:zakata (しーじゃかた)	ei:dzakata (しーぢゃかた)	ei:za~ei:za (しーざ~しーじゃ)	ei:zakata (しーじゃかた)
zi	お祝い	su:zi (すーじ)	ujuje:(うゆいえー)	su:zi (すーじ)	su:zi (すーじ)
	麴(こうじ)	ko:zi (こーじ)	ku:dzi (くーぢ)	ko:zi (こーじ)	ko:zi (こーじ)
	妻(つま)	tuzi (とうじ)	tuzi (とうじ)	tuzi (とうじ)	tuzi (とうじ)

	水(みず)	mizi (みじ)	mizi (みじ)	mizi (みじ)	mizi (みじ)
	風(かぜ)	kazi (かじ)	kazi (かじ)	kazi (かじ)	kazi (かじ)
	釘(くぎ)	kuzi (くじ)	kuzi (くじ)	kuzi (くじ)	kuzi (くじ)
	鋸(のこ)	nukuziri (ぬくじり)	nukuziri (ぬくじり)	nukuziri (ぬくじり)	nukuziri (ぬくじり)
	麦(むぎ)	mudzi (むーぢ)	muzi (むーじ)	mudzi (むーぢ)	mudzi (むーぢ)
zu	雑炊(ぞうすい)	zu:ei:me: (ずーしーめー)	dzu:ei: (ぢゅーしー)	zu:ei (ずーしー)	dzu:ei: (づーしー)
	去年(きょね)	kuzu (くず)	kuzu~kuzu (くじゅ~くず)	kuzu (くず)	kuzu (くず)
	蜻蛉(とんぼ)	ma:re: (まーれー)	akedzu (あけづ)	a:kedzu (あーけづ)	akke:zu: (あっけーず)
	冷たい	çizurusan (ひづるさん)	çizurusan~ çizurusan (ひずるさ ん~ひじゆるさん)	çizurasan~ çizurasan (ひずるさ ん~ひじゅらさん)	çizurusan (ひじゆるさん)
ze:	ばった	batta (ばった)	ma:dze: (まーぢえー)	ma:dze: (まーぜー)	ma:ze: (まーぜー)

### 3. 2. 4 歯茎破擦音

歯茎破擦音の /c/ は、母音 /a/, /u/ の前では [ts] ないし [tɕ], /i/, /o:/ の前では [tɕ] で発音される。/ca/ ([tsa] (つあ)~[tɕa] (ちゃ)) は標準語の / (i) ta/ (i のあとのタ) に、/ci/ ([tsi] (ち)) は標準語の /ci/ (チ), /cu/ (ツ), /ki/ (キ) に、/cu/ ([tsu] (つ)~[tɕu] (ちゅ)) は標準語の / (i) to/ (i のあとのト) と /ki/ (キ), /kjo/ (キョ), /teo/ (チョ) に応じている。例えば、teu (ちゅ) (人) は標準語の「ヒト」、teurahan (ちゅらはん) (美しい) は標準語の「キョラサ」に、teu:ka: (ちゅーかー) (急須) は標準語の「チョコ (猪口)」に対応する。以下に例をあげておこう。

表 20 破擦音 /c/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
ca	まな板(いた)	marutsa~marutea (まるつあ~まるちゃ)	marutea (まるちゃ)	marutea (まるちゃ)	marutea~marutsa (まるちゃ~まるつあ)
	いくら	teassa~teassa (ちやつさ~つあつさ)	tsassa~teassa (つあつさ~ちやつさ)	teassa (ちやつさ)	teassa (ちやつさ)
	短い	intsasan (いんつあさん)	intsasan~inteasan (いんつあさん~ いんちゃさん)	inteasan (いちゃさん)	intehan (いちゃはん)
ci	血(ち)	tei: (ちー)	tei: (ちー)	tei: (ちー)	tei: (ちー)
	乳(ち・ちち)	tei: (ちー)	tei: (ちー)	tei: (ちー)	tei: (ちー)
	露(つゆ)	teiju (ちゅ)	teiju (ちゅ)	teiju (ちゅ)	teiju (ちゅ)
	綱(つな)	teina (ちな)	teina (ちな)	teina (ちな)	teina (ちな)
	着物(きもの)	teinu (ちぬ)	tein (ちん)	teinu (ちぬ)	teinu (ちぬ)
	内(うち)	utei (うち)	utei (うち)	utei (うち)	utei (うち)

	餅(もち)	mutei~mu:tei: (むちー~むーちー)	muttei: (むっちー)	mutei: (むちー)	mutei: (むちー)
	松(まつ)	ma:tei (まーち)	ma:tei (まーち)	ma:tei (まーち)	ma:tei (まーち)
	一つ	ti:tei (ていーち)	ti:tei (ていーち)	ti:tei (ていーち)	ti:tei (ていーち)
	時(とき)	tutei (とうち)	tutei (とうち)	tutei (とうち)	tutei (とうち)
	垣(かき)	katei (かち)	katei (かち)	kakui (かくい)	katei (かち)
cu	人(ひと)	tsu~teu (つ~ちゆ)	teu~tsu (ちゆ~つ)	teu (ちゆ)	teu (ちゆ)
	糸(いと)	i:tsu:~i:teu: (いー つー~いーちゆー)	i:tsu: (いーつー)	iteu: (いちゆー)	iteu: (いちゆー)
	美しい	tsurasan~teurasan (つらさ~ちゆらさん)	tsurasan~teurasan (つらさん~ちゆらさん)	teurasan (ちゆらさん)	teurahan (ちゆらはん)
	急須(きゆう す・ちよか)	tsu:ka:~teu:ka: (つーかー~ ちゆーかー)	teu:ka: (ちゆーかー)	teu:ka (ちゆーか)	teu:ka: (ちゆーかー)
co:	知っているか	eitteonna (しっちよんな)	eitteo' nna (しっちよんな)	eitteo: nna (しっちよーんな)	eittsonna (しっつおんな)
	あの人こそ	anu tsugaru (あぬ つがる)	anu teo: (あぬ ちよー)	anu teo: (あぬ ちよー)	anu tsugaru (あぬ つがる)

### 3. 2. 5 歯茎鼻音

歯茎鼻音の /n/ は語頭、語中に立つ。久米島方言の /na/ (な) は標準語の /na/ (ナ) に、 /ni/ (に) は標準語の /ni/ (ニ), /ne/ (ネ) に、 /no/ (の) は標準語の /nu/ (ヌ), /no/ (ノ) に対応している。

表 21 歯茎鼻音 /n/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
na	今(いま)	nama (なま)	nama (なま)	nama (なま)	nama (なま)
	中(なか)	na:ka (なーか)	na:ka (なーか)	na:ka (なーか)	na:ka (なーか)
	鼻(はな)	hana (はな)	hana (はな)	hana (はな)	hana (はな)
	砂(すな)	eina (しな)	eina (しな)	eina (しな)	eina (しな)
ni	荷(に)	ni: (にー)	ni: (にー)	ni: (にー)	ni: (にー)
	北(きた)	niei (にし)	nici (にし)	niei (にし)	niei (にし)
	鬼(おに)	無回答	uni (うに)	uni (うに)	uni (うに)
	船(ふね)	φuni (ふに)	φuni (ふに)	φuni (ふに)	φuni (ふに)
nu	布(ぬの)	nunu (ぬぬ)	nunu (ぬぬ)	nunu (ぬぬ)	nunu (ぬぬ)
	命(いのち)	nutei (ぬち)	nutei (ぬち)	nutei (ぬち)	nutei (ぬち)
	犬(いぬ)	inu (いぬ)	inu (いぬ)	inu~in (いぬ~いん)	inu (いぬ)
	角(つの)	teinu (ちぬ)	teinno: (ちんの一)	teinu (ちぬ)	kunu (くぬ)
ne:	苗(なえ)	ne: (ねー)	ne: (ねー)	ne: (ねー)	ne: (ねー)
	真似(まね)	me:bi (めーび)	ne:bi (ねーび)	ne:bi (ねーび)	ne:bi (ねーび)

no:	浅瀬(あさせ)	assa (あっさ)	ino: (いのー)	?ino: (いのー)	無回答
	篩(ふるい)	jui / ɸui / mi:zo:ki: (ゆい/ふい/みーぞ ーきー)	ei:no: (しのー)	ei:no: (しのー)	jui (ゆい)

### 3. 3 軟口蓋音

軟口蓋音には、無声閉鎖音の /k/ と有声閉鎖音の /g/ がある。/ka/ (か) は標準語の /ka/ (カ) に、/ki/ (き) は標準語の /ke/ (ケ) に、/ku/ (く) は標準語の /ku/ (ク), /ko/ (コ) に対応している。3. 2. 4で述べたように、標準語の /ki/ (キ) は久米島方言では /ci/ [tei] (ち) に対応している。表22の「木」は、本来ならば [tei:] (ちー) となるはずだが、久米島方言では「毛」と同じように ki: (きー) と発音されている。これは、久米島方言では「木」という語が元々、\*ki ではなく \*ke という発音だったことを表している。奄美の喜界島方言、沖永良部方言、与論方言でも「木」は「毛」と同じ発音になっており(国立国語研究所2011, 2016)、もともと \*ke のような発音であったと推定される。なお、奄美方言の「木」がもともと \*ke だったことは、上村(1955)が指摘している。

表22 軟口蓋音 /k/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
ka	肩(かた)	kata (かた)	kata (かた)	kata (かた)	kata (かた)
	風(かぜ)	kazi (かじ)	kazi (かじ)	kazi (かじ)	kazi (かじ)
	明かり	akagai (あかがい)	akagai (あかがい)	akagai (あかがい)	akagai (あかがい)
ka:	皮(かわ)	ka: (かー)	ka: (かー)	ka: (かー)	ka: (かー)
	瓶(かめ)	ka:mi (かーみ)	ka:mi (かーみ)	ka:mi (かーみ)	ka:mi (かーみ)
ki	桶(おけ)	u:ki (うーき)	u:ki (うーき)	u:ki (うーき)	u:ki (うーき)
	酒(さけ)	saki (さき)	saki (さき)	saki (さき)	saki (さき)
ki:	木(き)	ki: (きー)	ki: (きー)	ki: (きー)	ki: (きー)
	毛(け)	ki: (きー)	ki: (きー)	ki: (きー)	ki: (きー)
ku	口(くち)	kutei (くち)	kʉtei (くち)	kutei (くち)	kutei (くち)
	びろう樹	kuba (くば)	kuba (くば)	kuba (くば)	kuba (くば)
	米(こめ)	kumi (くみ)	kumi (くみ)	kumi (くみ)	kumi (くみ)
	今年(ことし)	kutuei / kundu (くとうし〜くんどう)	kunru (くんる)	kutuei (くとうし)	kutuei (くとうし)
	奥(おく)	uku (うく)	uku (うく)	uku (うく)	uku (うく)
	箱(はこ)	haku (はく)	haku (はく)	haku (はく)	haku (はく)
ke:	蜻蛉(とんぼ)	ma:re: (まーれー)	akedzu (あけづ)	a:kedzu (あーけづ)	akke:zu: (あつけーず)
ko:	翹(こうじ)	ko:zi (こーじ)	ku:dzi (こーぢ)	ko:zi (こーじ)	ko:zi (こーじ)
	蟻(あり)	ai (あい)	aiko: (あいこー)	aiko (あいこ)	aiko: (あいこー)

/ga/ (が) は標準語の /ga/ (ガ) に、/gi/ (ぎ) は標準語の /ge/ (ゲ) に、/gu/ (ぐ) は標準語の /gu/

(グ), /go/ (ゴ) に対応している。なお, 3. 2. 3 で述べたように, 標準語の /gi/ (ギ) は久米島方言では /zi/ [zi] (ぢ) に対応している。

表 23 軟口蓋音 /g/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
ga	蟹(かに)	gani (がに)	gani (がに)	gai (がい)	gai (がい)
	洞窟(どうくつ)	gama (がま)	gama (がま)	gama (がま)	gama (がま)
	東(ひがし)	agari (あがり)	agari (あがり)	agari (あがり)	agari (あがり)
gi	白髪(しらが)	eiragi (しらぎ)	eiragi (しらぎ)	eiragi (しらぎ)	eiragi (しらぎ)
	蔭(かげ)	ka:gi (かーぎ)	kataka (かたか)	ka:gi (かーぎ)	ka:gi (かーぎ)
gu	力(ちから)	無回答	gute: (ぐてー)	gute: (ぐてー)	gute: (ぐてー)
	胡麻(ごま)	guma (ぐま)	guma (ぐま)	guma (ぐま)	guma (ぐま)
	垢(あか)	çingu (ひんぐ)	çingu (ひんぐ)	çingu (ひんぐ)	çingu (ひんぐ)
	女(おんな)	inagu (いなぐ)	inagu (いなぐ)	inagu (いなぐ)	inagu (いなぐ)
ge:	口蓋(あご)	utuge: (うとうげー)	utuge: (うとうげー)	uttuge: (うとうげー)	utuge: (うとうげー)
go:	苦瓜(にがうり)	go:ja: (ごーやー)	go:ja (ごーや)	go:ja (ごーや)	go:ja: (ごーやー)
	かゆい	<sup>w</sup> igo:san (ういごーさん)	ŋgo:san (んごーさん)	igo:san (いごーさん)	ŋgo:han (んごーはん)

久米島方言には, 唇音性を帯びた /k<sup>w</sup>/, /g<sup>w</sup>/ という子音があり, 以下の表のような語に現れる。k<sup>w</sup>i: (くいー) (声) は, \*kowe > \*kowi > k<sup>w</sup>i: のような変化の結果生じた音である。

表 24 軟口蓋音 /k<sup>w</sup>/, /g<sup>w</sup>/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
k <sup>w</sup> a	南瓜(かぼちや)	nan <sup>k</sup> w <sup>a</sup> : (なんくわー)	nan <sup>k</sup> w <sup>a</sup> : (なんくわー)	nan <sup>k</sup> w <sup>a</sup> n (なんくわん)	nan <sup>k</sup> w <sup>a</sup> (なんくわ)
	子(こ)	k <sup>w</sup> a: (くわー)	k <sup>w</sup> a (くわ)	k <sup>w</sup> a (くわ)	k <sup>w</sup> a: (くわー)
k <sup>w</sup> a:	桑(くわ)	k <sup>w</sup> a:gi: (くわーぎ)	k <sup>w</sup> a:gi (くわーぎ)	k <sup>w</sup> a:gi (くわーぎ)	k <sup>w</sup> a:gi (くわーぎ)
k <sup>w</sup> i:	声(こえ)	k <sup>w</sup> i: (くいー)	k <sup>w</sup> i: (くいー)	k <sup>ɥ</sup> i: (くいー)	k <sup>w</sup> i: (くいー)
k <sup>w</sup> e:	とうがらし	kuso: (くそー)	ko:garaei (こーがらし)	k <sup>w</sup> e:garasi: (くうえーがらすいー)	k <sup>w</sup> e:garasu: (くうえーがらすー)
g <sup>w</sup> a	蚕(かいこ)	無回答	muei <sup>g</sup> w <sup>a</sup> : (むしんぐわー)	muei <sup>g</sup> w <sup>a</sup> (むしぐわ)	muei <sup>g</sup> w <sup>a</sup> : (むしぐわー)
	台所(だいどころ)	tong <sup>w</sup> a (とんぐわ)	tong <sup>w</sup> a (とんぐわ)	tung <sup>w</sup> a (とんぐわ)	tong <sup>w</sup> a (とんぐわ)

### 3. 4 声門音

声門音には, 摩擦音(無声)の /h/ がある。/h/ は, 母音 /a/, /e:/, /o:/ の前では [h], 母音 /i/ の前では口蓋音の [ç], 母音 /u/ の前では両唇音の [ɸ] で発音される(この点は標準語と同じ)。

表 25 声門音 /h/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
ha	花(はな)	hana (はな)	hana (はな)	hana (はな)	hana (はな)
ha:	柱(はしら)	ha:ja (はーや)	ha:ja (はーや)	ha:ja (はーや)	ha:ja (はーや)
	かんざし	ɕi:ɸwa: (ちーふあー)	ɕi:ɸwa: (ちーふあー)	zi:ha: (じーはー)	ɕi:ha: (ちーはー)
hi	足(あし)	ɕisa~ɕisa (ひしゃ~ひさ)	ɕisa (ひさ)	ɕisa (ひさ)	ɕisa (ひさ)
	額(ひたい)	ɕitee: (ひちえー)	ɕitee: (ひちえー)	ɕitee: (ひちえー)	ɕitee: (ひちえー)
hu	船(ふね)	ɸuni (ふに)	ɸuni (ふに)	ɸuni (ふに)	ɸuni (ふに)
	骨(ほね)	ɸu:ni (ふーに)	ɸu:ni (ふーに)	ɸu:ni (ふーに)	ɸu:ni (ふーに)
	たんこぶ	kubu (くぶ)	gana: / gu:ɸu (がなーぐーふ)	gu:ɸu (ぐーふ)	gana: (がなー)
hu:	帆(ほ)	ɸu: (ふー)	ɸu: (ふー)	ɸu: (ふー)	ɸu: (ふー)
he:	蠅(はえ)	he: (へー)	he: (へー)	he: (へー)	he: (へー)
	南(みなみ)	he: (へー)	he: (へー)	he: (へー)	he: (へー)
ho:	鳩(はと)	ho:tu (ほーとう)	ɸu:tu (ふーとう)	ho:tu (ほーとう)	ho:tu (ほーとう)
	箒(ほうき)	ho:tei (ほーち)	ho:tei (ほーち)	ho:tei (ほーち)	ho:tei (ほーち)

### 3. 5 接近音

接近音には /j/, /w/ がある。/j/ は硬口蓋の接近音で、母音 /a/, /u/, /e/ の前に立つ。西銘では /jo:/ の音も現れる。久米島の /j/ は標準語の /j/ に対応している。

表 26 接近音 /j/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
ja	山(やま)	jama (やま)	jama (やま)	jama (やま)	jama (やま)
	茅(かや)	kaja (かや)	kaja (かや)	kaja (かや)	kaja (かや)
ja:	お前(おまえ)	ja: / jaru (やー/やる)	ja: (やー)	ja: (やー)	ja: (やー)
ju	床(ゆか)	juka (ゆか)	juka (ゆか)	juka (ゆか)	juka (ゆか)
	夜(よる)	juru (ゆる)	juru (ゆる)	juru (ゆる)	juru (ゆる)
	露(つゆ)	teiju (ちゆ)	teiju (ちゆ)	teiju (ちゆ)	teiju (ちゆ)
ju:	湯(ゆ)	ju: (ゆー)	ju: (ゆー)	ju: (ゆー)	ju: (ゆー)
je	襟(えり)	jeri (いゑり)	teinnukubi (ちんぬくび)	jeri (いゑり)	jeri (いゑり)
je:	櫂(舟のカイ)	e:ku~je:ku (えーく~いゑーく)	je:ku (いゑーく)	je:ku (いゑーく)	ɸe:ku (いゑーく)
jo:	魚より	ijujo:ka: (いゆよーかー)	ijujuka (いゆゆか)	ijujukan (いゆゆかん)	ijujukan (いゆゆかん)



/w/ は両唇の接近音で、母音 /a/, /i/ の前に立ち、標準語の /w/ に対応している。/wi/ は、調査語の範囲では「上」の1例のみに現れた。

表 27 接近音 /w/

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
wa	腹(はら)	wata (わた)	wata (わた)	wata (わた)	wata (わた)
	藁(わら)	wara (わら)	wara (わら)	wara (わら)	wara (わら)
	豚(ぶた)	wa: (わー)	wa: (わー)	wa: (わー)	wa: (わー)
	私(わたし)	wa: (わー)	wan (わん)	wan (わん)	wan (わん)
wi	上(うえ)	*e: (うえー)	ui~we: (うい~うえ)	wi: (ういー)	wi: (ういー)

### 3. 6 モーラ音素

子音だけでモーラ(拍)を形成する音に、撥音 /N/ (ん) と促音 /Q/ (っ) がある。撥音は鼻にかかる音で、後ろの子音により [m], [n], [g], [ŋ] の音で発音される。例えば、後ろに両唇音の [p], [b], [m] があるときには、撥音は両唇の鼻音 [m] で、歯茎音の [t], [d], [n] があるときには歯茎の鼻音 [n] で、軟口蓋音の [k], [g] があるときには軟口蓋の鼻音 [ŋ] で発音される。また、後ろに摩擦音の /s/ があるとき、および語末では、口蓋垂の鼻音 [N] で発音される。

標準語の撥音は語頭に立たないが、久米島方言では mmu (んむ), ŋkaei (んかし) のように撥音が語頭に立つ。

表 28 撥音

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
m	唾(つば)	tuppe: (とっぺー)	tuppe: (とっぺー)	tumpe: (とんぺー)	tumpe: (とんぺー)
	頭(あたま)	teiburu (ちぶる)	teimburu (ちんぶる)	teimburu (ちんぶる)	teimburu (ちんぶる)
	甘藷(さつまいも)	mmu (んむ)	mmu (んむ)	mmu (んむ)	mmu (んむ)
n	崖(がけ)	teiritu (ちりとう)	teiribanta (ちりばんた)	hanta (はんた)	teiribanta (ちりばんた)
	夫婦(ふうふ)	mi:tunra:~ mi:tunda: (みーとんらー~ みーとんだー)	mi:tunda (みーとんだ)	mitunda (みとんだ)	mi:tunda (みーとんだ)
	雷(かみなり)	kannai (かんない)	kannai (かんない)	kannai (かんない)	kannai (かんない)
ŋ	昔(むかし)	ŋkaei (んかし)	mukaiei (むかし)	ŋkaei (んかし)	ŋkaei (んかし)
	垢(あか)	çiŋgu (ひんぐ)	çiŋgu (ひんぐ)	çiŋgu (ひんぐ)	çiŋgu (ひんぐ)
N	三味線(しゃみせん)	sanein (さんしん)	sanein (さんしん)	sanein (さんしん)	sanein (さんしん)
	鋏(はさみ)	hasan (はさん)	hasan (はさん)	hasan (はさん)	hasami (はさみ)

促音は同一の子音を重ねる音で、調査の範囲では [pp], [tt], [kk], [ss], [cc] の促音が現れた。

表 29 促音

	語	西銘	儀間	比嘉	真謝
pp	唾(つば)	tuppe: (とぅっぺー)	tuppe: (とぅっぺー)	tumpe: (とぅんぺー)	tumpe: (とぅんぺー)
tt	一昨日(おととい)	utti: (うっていー)	utti: (うっていー)	ututui (うとうとい)	utti: (うっていー)
	弟(おとうと)	uttu (うっとう)	uttu (うっとう)	uttu (うっとう)	uttu (うっとう)
kk	袋(ふくろ)	φukuru~φukku (ふくる~ふっく)	φukuru (ふくる)	φukku (ふっく)	φukku (ふっく)
	枕(まくら)	makk <sup>w</sup> a (まっくわ)	makk <sup>w</sup> a (まっくわ)	makk <sup>w</sup> a (まっくわ)	makk <sup>w</sup> a (まっくわ)
ss	いくら	teassa (ちやっさ)	tsassa (つあっさ)	teassa (ちやっさ)	teassa (ちやっさ)
cc	お兄さん	jattei: (やっちー)	jattei: (やっちー)	jattei: (やっちー)	jattei: (やっちー)

#### 4 音素目録

以上の音素の一覧をまとめておこう。

##### (1) 母音音素

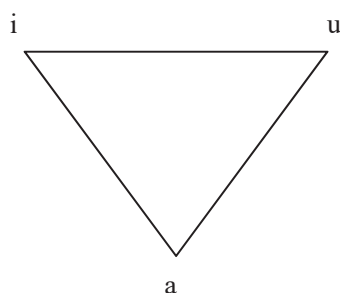


図 1 短母音音素

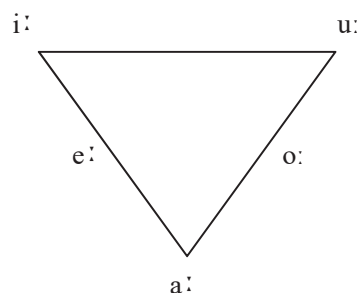


図 2 長母音音素

##### (2) 子音音素

表 30 子音音素

調音方法		両唇	歯茎・硬口蓋	軟口蓋	声門
破裂	無声	p	t	k	
	有声	b	d [d~ɾ]	g	
鼻音		m	n		
摩擦	無声		s [s~ɕ]		h [h~ç~φ]
	有声		z [z~ɟ~ʒ~ʒ]		
はじき			r		
破擦	無声		c [tʰ~tɕ]		
	有声				
接近		w	j		
二重調音	無声			k <sup>w</sup>	
	有声			g <sup>w</sup>	

(3) モーラ音素

撥音 N [m, n, ŋ, ɳ]  
 促音 Q [pp, tt, kk, ss, cc]

5 音節

久米島方言の音節の構造は, (O)N(Co) である(Oは onset(頭子音), Nは nucleus(中核母音), Coは coda(結び)を, ( )は任意であることを表す)。音節の必須の要素はN(中核母音)で, これにO(頭子音), Co(結び)がついて, 1つの音節を作る。

表 31 音節構造

O(頭子音)	N(中核母音)	Co(結び)
p, b, m	a, i, u	N
t, d, s, n, r, c	a:, i:, u:, e:, o:	Q
k, g, k <sup>w</sup> , g <sup>w</sup>	ai, ui	
h		

参考文献

上村孝二(1955)「奄美大島方言の発音について」『鹿児島大学紀要文科報告』4(上村 1998, pp.299-315  
 に再録)  
 上村孝二(1998)『九州方言・南島方言の研究』秋山書店  
 国立国語研究所(2011)『消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究 喜界島方言調査報告書』  
 国立国語研究所共同研究報告 11-01  
 国立国語研究所(2016)『消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究 与論方言・沖永良部方言  
 調査報告書』国立国語研究所  
 服部四郎(1932)「『琉球語』と『国語』との音韻法則」『方言』2-7, 2-8, 2-10, 2-12  
 服部四郎(1959)『日本語の系統』岩波書店  
 仲原穰(2006a)「沖縄久米島真謝方言の音韻研究」『沖縄文化』90, pp.21-50  
 仲原穰(2006b)「久米島真謝方言の名詞のアクセント—「類別語彙」1・2音節名詞を中心に—」  
 『琉球の方言』30, pp.167-182  
 中本正智(1983)『琉球語彙史の研究』三一書房  
 藤原啓治(1982)「久米島方言の音韻—西銘方言を中心に—」『沖縄久米島』pp.697-716  
 松森晶子(2000)「琉球アクセント調査のための類別語彙の開発—沖永良部島の調査から—」『音  
 声研究』4-1, pp.61-71  
 松森晶子(2012)「琉球調査用『系列語彙』の素案」『音声研究』16-1, pp.30-40